

「やわらかな琥珀」

—2 稿—

2025/10/21

雨森 れに

〈人物表〉

永井 美玖 ながい みく

(28) 源氏名はミイ。シングルマザー

永井 瞬斗 しゅんと

(11) 美玖の息子

田崎 勉 たさき つとむ

(53) 美玖の客

客

(50代) 美玖の客

1.

永井家・台所（夕）

築五十年ほどのアパートにある、狭い台所。作業台の上には大きいタッパーがあり、中には豆腐の天寄せが入っている。

派手なヘアメイクをした永井美玖（28）が、それを切り分ける。

瞬斗の声「ただいま」

ドタバタと足音。

ランドセルを背負った永井瞬斗（11）が現れる。

瞬斗「もう行くの」

美玖「うん。あ、これ、おやつ」

美玖、小皿に乗せた天寄せを見せる。

琥珀色の羊羹のようで、雲のように散りばめられた豆腐が閉じ込められている。

瞬斗「またそれ？」

美玖、天寄せを一切れ取って口に運ぶ。

美玖「おいしいじゃん。半分店に持っていくけど、いい？」

瞬斗「好きにすれば」

瞬斗、ランドセルから手紙を出す。

美玖、手紙を見て顔を曇らせる。

美玖「ごめん。キャンプはひとりで」

瞬斗、遮って、

瞬斗「わかってるよ。他にも親来ない人いるし」

美玖「でも」

瞬斗「もう行きなよ。今日もドーハンってやつなんでしょ」

美玖「悪いと思ってるのに」

美玖、瞬斗の頭を撫でようとする。

瞬斗「触んなくて！」

瞬斗、美玖の手をどかし、台所を出ていく。

美玖、自分の手を見つめ、悲しげ。

2.

繁華街（夜）

田舎にある小さな繁華街。飲食店やスナックが並んでいる。

3. スナック・外観（夕）

雑居ビルの一階。スナック『プラティ』から美玖が

出てくる。

歩いてきた田崎勉（53）、店の前で立ち止まる。

勉 「ミイちゃん」

美玖 「あ、勉さん！ 迎えに来てくれたの？」

美玖は笑顔で、勉の腕に抱き着く。

勉、美玖の胸が当たって嬉しそうにする。

美玖 「今日は私がお通し当番なんだあ」

勉 「へえ。何作ったの？」

美玖 「天寄せ。息子の好物なの」

勉 「息子くんと俺、いい親子になりそうじゃない？」

美玖、ぎこちなく笑う。

美玖 「勉さんも天寄せ好きなんだ？」

ふたりは夜の街へ消えていく。

4. 焼肉屋・BOX席（夜）

繁華街にある、落ち着いた雰囲気焼肉屋。

隅のBOX席に、美玖と勉が並んで座っている。

勉、美玖の尻の下に手を差し入れる。

美玖、笑顔で手を叩く。

勉は動じず、美玖の表情が陰る。

店員が肉を持ってくる。

勉の手が離れる。

美玖、席を立つ。

5. 焼肉屋・女子トイレ・個室（夜）

美玖は便座に腰掛け、うつむいている。

ぎゅっと目を閉じ、諦めたように立ち上がる。

6. 焼肉屋・BOX席（夜）

美玖、嬉しそうに肉を食べる。

勉は美玖の太ももを撫でている。

7. 焼肉屋・外観（夜）

美玖と勉が出てくる。

勉、美玖の腰を抱いて歩き始める。

8. 永井家・台所（夜）

瞬斗が洗った食器を水切りラックに並べている。

手を拭きながら、冷蔵庫を見る。

冷蔵庫を開けると、小皿に乗った天寄せがある。

9. スナック・店内（夜）

昭和を感じる内装。客入りはほどほどで、従業員たちはどこかだらっとした雰囲気。

美玖と勉が乾杯する。

黒服が美玖に話しかける。

美玖、勉の卓から離れる。

勉、不機嫌そうな表情。

美玖、歩きながら、

美玖 「あれ、ヤバいかも」

黒服 「さーせん。別の子つけとくんで」

× × ×

勉がギリギリ見えない位置の卓。

成金風の中年男性が天寄せを食べている。

客 「ミイちゃん、おひさ〜」

美玖、客の隣に座る。

美玖 「もー、顔忘れちゃうかと思ったあ。ね、今日のお通し私
が作ったんだけど！ どう？」

客 「懐かしい！ 久々だとおいしいね〜」

美玖 「あ、わかった。私も久々だとおいしいってことでしょ！」

美玖が客をつつく。

客、嬉しそうに美玖を抱き寄せる。

抱き寄せた手をゆっくり移動させ、胸へ。

美玖 「こらあ」

勉 「そいつにも触らせるのかよ！」

店内の会話が止まる。

勉が立ち上がって美玖を睨んでいる。

そのままテーブルを蹴り上げる。

グラスや氷の落ちる音。

黒服 「落ち着いてください！」

勉 「ミイを俺んとこ戻せよ！」

黒服 「はい、はい！ もちろんです！」

美玖、黒服に対し、信じられないという表情。

しかし、黒服はその視線を無視。

客 「俺、こういうのマジ勘弁。客のあしらいかた、なってないんじゃないの」

美玖、悔しそうにうつむく。

10. 永井家・居間（夜）

狭い和室。畳の上に空になった小皿が置いてある。

瞬斗は狭いちゃぶ台で宿題をしている。

あくびが出て、壁時計を見る。

11. スナック・店内（夜）

勉の腕時計は十時半を指している。

卓には大量のボトルが並び、美玖は泥酔状態である。

勉は美玖の体をまさぐっている。

美玖、力なく抵抗する。

店内は面白そうに見物する者、見て見ぬふりをする者、ひそひそと話す者という。だが、誰も止めない。

勉、美玖の服をまくりあげ胸を露わにしようとする。

急に体勢を変えられた美玖が、吐き気をもよおす。

12. アパート・外階段（夜）

美玖が寝そべるように座り、階段が揺れる。

服は吐しゃ物で汚れている。

ドアの開く音。

瞬斗、美玖の頭の上に位置する段差で立ち止まる。

美玖、薄目をあける。

瞬斗は仏頂面をしている。

美玖 「よふかし、しちやダメじゃん」

瞬斗 「今起きたんだってば」

美玖 「ごはん、たべた？」

瞬斗 「おいしかった」

美玖 「しゅくだいは？」

瞬斗 「した。ん（美玖に手を差し伸べる）」

美玖、手を取らない。顔を覆って、

美玖 「キャンプ、行けなくてごめんねえ」

瞬斗 「いいってば。ねえ、すぐそこだから頑張って」

美玖、ゆっくりと体勢を変え、瞬斗の手を取る。

瞬斗、美玖の重さによりめくも、ふんばる。

階段をあがっていく瞬斗と美玖。

13. 永井家・居間（夜）

布団が二組敷いてある。

パジャマ姿の美玖、布団に倒れ、寝息を立て始める。

瞬斗が毛布をかける。

瞬斗、美玖の寝顔を眺めながら眠りにつく。

× × ×

朝になり、美玖が目を覚ます。

瞬斗の布団はすでに片付けられている。

14. 永井家・台所（朝）

美玖が台所を覗く。

瞬斗がタッパーから直接天寄せを食べている。

瞬斗、美玖と目が合い、気まずそうにする。

瞬斗 「おなか、すいちゃって……」

美玖 「ごはん、作ろっか」

瞬斗 「いい。これ好きだし」

瞬斗、美玖に背を向ける。

美玖、その背中を抱きしめる。

朝の穏やかな光が、ふたりを包んでいる。

おわり